

仏教国として再び花開く中国を

日本に住んでいれば、政府の批判をしても、仏様や神様を信じて、迫害を受ける心配はありません。しかし、中国では四六時中、行動や言動が監視され、政府の考えと違うと判断されれば、恣意的に逮捕され、監禁され、拷問を受ける——。そうした政治状況では、言論の自由、行動の自由も無きが如し、人間の尊厳も存在しません。

信仰者にとって、信仰を捨てることは、命を失うこと以上に耐えがたい苦しみです。これは、チベットの僧侶たちの焼身自殺が表していることでもあります。

幸福実現党は、人間は皆、神の子・仏の子であり、仏と同じ性質を持っていることを人権の根拠にしています。「信教の自由」や「理想の社会をつくっていく思想・良心・言論の自由」は、あらゆる人間が仏神から与えられた自由として、守らなければなりません。

歴史を遡れば、日本の仏教は中国からやってきました。
仏教が花開いた隋や唐の時代、中国の文化は最高度に花開いていたのです。

わが党は、日本に仏教を伝来してくれた恩ある中国が、仏教国として再び輝きを取り戻すこと、人権弾圧を行っている中国共産党指導部が考え方を改めることを心から願っています。

日本にも出来ることがあります。隣国で苦しむ方々の声に耳を傾け、政治犯とされた亡命者を受け入れたり、人権侵害に対しては断固ノーの声を上げることです。

私たちは日本政府に、中国の人権侵害に対してできる限りの働きかけを行うよう要望します。頂いた署名は苦しんでいる方々の力になります。ご協力をお願いいたします。

幸福実現党 党首 釈量子



見て見ぬ
ふりは
出来ない!

誰もが笑顔で 生きていける国へ ～日本から見えていない中国の闇～



日本のお隣、中国には14億人の人々が暮らしています。しかし、特にチベット・ウイグル・内モンゴルなどでは、日本人の想像を絶するような人権弾圧が行われており、中国全土に広がっています。私たちは、同じアジアの仲間として見過ごすことができず、このたび立ち上がりました。

幸福実現党 東京都本部



幸福実現党

中国で今、起きている「現実」に、目をつぶることはできない

私たちは、行動を始めます

政府を批判すると、逮捕される国

経済的に繁栄し、日本との交流も活発な中国ですが、国内では集会の自由・言論の自由が事実上、認められていません。習近平国家主席は2期目に入り、終身制を実現しています。弾圧はさらに過酷なものとなり、人々の自由は厳しく制限されています。

TOPICS 1 憲法改正を訴えて逮捕

1月に憲法改正を提言した人権派弁護士の余文生氏が、4月に国家政権転覆扇動容疑などで逮捕された。余氏は「単独政党による選挙を通して、国家元首である国家主席を任命することは無意味である」などとする書簡を発表。中国では2015年7月に、人権派弁護士が相次いで拘束され、数日間にわたる睡眠剥奪、不明薬物の強制摂取、2週間も身体を縛り付けたままにするなどの拷問が行われていたとの証言が多数ある。

TOPICS 2 リゅうぎよう は 劉曉波氏の親族、軟禁

中国の人権活動家で、ノーベル平和賞を受賞した劉曉波氏は2017年7月に死亡したが、妻の劉霞氏は依然として自宅に軟禁されていた。7月に劉霞氏は病氣療養を理由にドイツに出国を認められたが、弟の劉暉氏の出国は認められていない。



劉曉波氏が亡くなった直後に、香港で行われた追悼集会。

TOPICS 3 14 億人総監視社会

ウイグルには町中に監視カメラが設置されている（右写真）。家から一定以上離れると通報されたり、買い物の際に顔認証システムを通す必要があるなど、行動は当局に全て把握される。この「天網」と呼ばれる監視網はウイグルやチベットで先行導入されたが、2020年までに全人民を対象とする計画が進んでおり、政治犯とされた人は生活できない「総監視社会」がつくられつつある。ネットの検閲も行われ、TwitterやFacebookには接続できない。「民主化」など政府批判に繋がる言葉は、検索が規制されている。



写真：THE FACT 取材班

信仰を持つと、拷問を受ける国

中国では、「何を信じるか」を政府が決めています。政府に認められ、政府の考えに沿って活動する教会や寺院以外の宗教活動は許されていません。中国共産党の一党独裁に対して批判的な信仰・思想を持っていると、生命を失うことさえあります。

TOPICS 1 戸別訪問で信仰者を摘発

2017年の初めから、中国共産党政府は特別世帯監視（戸別訪問）を開始した。全能神という新宗教の信者は教えを学ぶ手段である「本」や「音声データ」などを押収され、思想改造を受ける。電気棒などによる拷問で亡くなる人も出ている。（「宗教と人権について考える会」サイトより）

TOPICS 2 相次ぐ焼身自殺

中国のチベット自治区では、民主化や信教の自由を求める人は弾圧され、僧侶を中心に数多くの焼身自殺が起きている。遺体が警察から返還されない、家族が逮捕されたり、出身地の街や村が補助金を打ち切られるなどの罰を受ける。



チベット解放を求めるカナダでのデモ。

TOPICS 3 アメリカが非難した「再教育キャンプ」

アメリカ国務省は7月、「信教の自由の促進」をテーマとした閣僚会議を行った。講演を行ったペンス副大統領は新疆ウイグル自治区のイスラム教を信仰する人々について、「数十万、あるいは数百万と見られる人たちが再教育施設に移され、政治教育を強いられている」と中国当局を非難した。国外に亡命したウイグル人団体は、家族がキャンプ内の劣悪な環境や拷問によって亡くなっていることを主張している。

TOPICS 4 臓器移植が活発な恐ろしい理由

ウイグルのカシュガル空港には、移植に使う臓器の通り道がある（写真）。中国では臓器移植の待ち時間が最短数時間というが、移植用の冷凍保存はできない。そのため、思想犯とされた人、上記の再教育キャンプ内で亡くなった人から「随時」取り出されているのではないか、と疑われている。



写真：2017年10月18日付大紀元時報